

II 校務分掌・学年重点目標と達成手段

宮崎県教育 基本方針	本県の教育は、あらゆる教育の場を通じ、教育基本法にうたわれている人間尊重の精神を基調として、 「たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性」 をそなえ、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれ、新たな時代を切り拓いていく気概を持ち、心身ともに調和のとれた人間の育成を目指します。						
学校経営 ビジョン	自信と誇り、高い志を持つ自立した経済人の育成を目指し、地域および県民の負託にこたえる学校の創造 —経済の変化を察知し、対応するために学び行動し、経営活動に参画する職業人の育成						
目指す 方向性	目指す生徒像		目指す学校像		目指す教師像		
重点目標	①キャリアビジョンを描き実現できる生徒 ②都商ならではの学びを実践できる生徒 ③地域の文化・産業の発展に貢献できる生徒	④地域社会の負託にこたえる学校 ⑤自立した品格ある経済人を育む学校 ⑥高い志と人間性を育むことができる学校	⑦変化を恐れず、常に前向きな教師 ⑧学問の本質や常識を的確に指導できる教師 ⑨時代の変化や地域のニーズに敏感な教師	達成手段	前期	後期	年間平均
1 キャリアビジョンを描き実現する生徒の育成	①授業改善(教える→考えさせる授業へ) ②教師の授業力向上 ③キャリアビジョンの構築と実現(メタ認知) ④朝読書の質的向上				2.9	3.1	3.0
2 自立した品格ある生徒の育成	①環境教育の実施と教育環境の整備 ②先輩からの都商イスム伝達(卒業生・在校生) ③礼節を重んじ、何事にも誠実に取り組む姿勢 ④教育環境の整備と施設設備の維持管理				2.8	3.0	2.9
3 高い志と人間性を身につけた生徒の育成	①公共施設でのマナー向上 ②美化意識の向上と施設・設備の充実 ③危機察知能力の育成 ④部活動を通じた高い人間性・人間力の育成				2.8	2.9	2.9
4 地域の文化・産業の発展に貢献できる生徒	①地域行事への参加奨励 ②地域と学校の連携・協働の充実 ③行政との連携強化 ④予算の計画的・効果的な執行				3.1	3.0	3.1
評価指標 4(期待以上) 3(ほぼ期待通り) 2(やや期待を下回る) 1(改善を要する)							
校務分掌							
分掌	番号	重点目標 との関連	具体的な方策	評価	●今期の課題○次期必実施項目		
教務部	1	1-①	学習指導要領に対応した学習評価(3観点別評価)の実施と研修	前期 2.9	後期 3.2	年間 3.1	●甲斐先生による評価についての発表があり、各教科とも今後の課題を把握でき評価について深めていくことができた。また、先進校視察報告から、都商ならではの評価も見えてきた。しかし、全ての教科がフレンチ評価ができない現状もあり、さらなる研修が必要である。 ○来年度は教科関係なく横断的な話し合いができる研修の設定。
	2	1-②	授業力向上を目指した、研究授業・公開授業の設定	前期 -	後期 2.9	年間 2.9	●各教科で公開授業を実施した。参観者が少ないことが一つの課題である。全員の公開授業を設定すると回数が増えすぎて参観できない。 ○実施方法の検討。
	3	4-②	生徒募集を目的とした効果的な情報発信	前期 3.4	後期 3.1	年間 3.3	●中学校での説明会から一日体験入学の案内に関してはスムーズに行われ、500人程度の中学生が体験学習に参加できた。職員の数からして、500人の人数は多すぎると意見もあり、実施形態は考えていく必要がある。 ●中の中でも定期的に行われ、中学生や保護者も見ているようである。現在、部活動・行事がメインで更新されているが、それ以外の発信もする必要がある。 ○中学生の見ているSNS等に掲載される情報発信 ●今年度も入試の倍率は1倍を超えることができたが、来年度も同様だと限らない。体験入学の人数と入試の受検生の数がうまく結びついていない。 ○体験入学への流れみはうまくいっているが、その後の戦略が不可欠。体験入学の内容・広報手段・広報の内容など。
生徒指導部	1	2-③	あらゆる場面を通しての挨拶や礼法の徹底	前期 2.6	後期 3.2	年間 2.9	●学年によって差がある。 ○学校全体での取り組みとして継続して徹底させていきたい。
	2	3-① 3-③	情報モラルや情報リテラシーの周知徹底	前期 2.5	後期 2.6	年間 2.6	●SNSにおいて表面に出てきていない問題が多くあるように感じた。
	3	2-② 3-④	部の伝統を継承し、高い目標を設定し挑戦	前期 2.6	後期 3.0	年間 2.8	●学校全体を活気づけていく仕掛けや取り組みを検討していきたい。 ●部活動集会の中身の工夫が必要であると思いました。 ○生徒の受け身ではなくそれぞれの部の実績を残した生徒に話をさせることなどが必要。 ○キャブテン集会を行なうなどのリーダー育成を改めて行なう。
進路指導部	1	1-③	キャリア教育の充実	前期 3.0	後期 3.0	年間 3.0	●探求の時間についての内容把握の重要性。今後さらに深く問われる方向性が見られている。 ○「キャリア教育の充実」という目標に対しての評価は見えにくいので要検討。 ○1・2年次の進路学習の機会を増やした方がよい。
	2	2-③	生徒が主体的に進路を選択できるよう指導・助言する(常時指導)	前期 2.8	後期 3.1	年間 3.0	●進路別(大学別)に必須の資格や取得を推進する一覧表の必要性を感じたので、工夫した。
	3	4-③	地域と連携した活動への積極的参加を促す	前期 2.7	後期 3.1	年間 2.9	●共創ウェーブリング部を中心に各イベントに積極的な姿勢が見られた。本校が主催する内容もあった。 ●地元企業や都城市役所等が主催するイベントへの積極的な参加が見られた。継続していきたい。
環境保健部	1	2-①	環境問題に係る学習の充実	前期 2.5	後期 2.5	年間 2.5	●今年度、後期に向け、担当と連携を密にとり、LHR等で環境学習に積極的に取り組んでいきたい。
	2	3-②	日々の清掃活動を充実させる取り組み(取りかかり・実践)	前期 2.5	後期 2.6	年間 2.6	●清掃の取り組みを意識させたい。 ●校内の雑草を学校全体で除草できる時間確保、実践に向けて提案していきたい。 ○ゴミの量を減らす取り組みの充実(お菓子等のゴミが多い)。
	3	3-③	防災・救急救命・感染症対策に関する教育の実施	前期 3.0	後期 3.2	年間 3.1	●今年度、早い時期に消防と連携して避難訓練を実施できた。今後、決まった時間ではなく、臨機応変に対応できるかどうかの検証訓練を実施していきたい。 ○養護教諭と連携を密にし、感染症(特に今年度のマイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎等)に関する日常でできることを積極的に呼びかける。
図書涉外部	1	1-④	生徒の興味・関心に基づいた選書指導	前期 3.3	後期 3.0	年間 3.2	○第1回観察会は例年通りできている。 ○生徒のワークストア教師の要望に応じた書籍の購入は順調にできた。 ●蔵書内容の充実など、さにいっとうの創意工夫の必要がある。
	2	3-①	図書館利用規定の周知徹底と遵守指導	前期 3.2	後期 2.8	年間 3	●利用マナーはほぼ良好に保たれているが、大きな声でお喋りする生徒が見受けられた。 ○校内でのプリオバトルはクラスとも有意義に進められた。 ○県図書館の電子ライブラリをどのように活用するか。
	3	4-①	学校行事参加についての保護者への協力依頼(120周年に向けての準備と実施)	前期 2.5	後期 3.0	年間 2.8	●各活動を概ね予定通り実施出来た。 ○都北地区の事務局が回ってくるので、各校との連携を図り充実させたい。 ●120周年記念式典を実施出来た。
事務部	1	2-① 2-④	教育環境の整備に係る点検と改善	前期 2.7	後期 3.0	年間 2.9	●老朽化により故障した空調機等を複数台更新した。複数台故障している分について予算要求をしていく。 ○宮崎課執行工事、高等特別支援学校にかかる工事について学校運営に障壁をきたさないよう情報を共有し調整しながらすめていく。
	2	3-③	来校者等に対する丁寧な窓口対応	前期 2.6	後期 3.0	年間 2.8	●来校者、または電話応対において、丁寧な対応を心掛けた。
	3	4-④	物品等の計画的・効果的な整備	前期 2.6	後期 2.8	年間 2.7	●適切な備品管理のため、使用担当者、写真、場所の整理を行っている。今後も継続していく。 ○各部科から備品購入の要求を調査し、計画的に執行する。
1学年	1	1-① 1-③	探究活動を通じて、地域と学校の連携を深め、地域の発展に貢献できる生徒を育てる。	前期 3.1	後期 3.3	年間 3.2	●全般的に探究活動では生徒それぞれの興味関心を伺うことができ、積極的な取り組みも見られた。今後の課題意識の意欲がつけてきた。 ●それそれが探究活動を活発に行っていたと思うが、感染症などもあり、地域との連携を深めるところまでは至っていない。 ○より地域と連携し、地域に貢献できる活動が増やすとさらに良いと思ふ。今期は外部機関に協力を断られることもあり、受け入れられる基盤づくりの大切さを痛感した。来年度は1年間に得た知識と経験をいかにいち早く地域の情報と結びつけて生徒の活動につなげていくかが課題である。
	2	2-③	商業人としての礼節やマナーを意識し、仲間と共に実践できる態度を育てる。	前期 3.2	後期 3.4	年間 3.3	●年度途中で退部する生徒が多くいた。 ●普段の学校生活の中で不安に感じていることなども聞くことなく相談できる生徒も多い。 ○校内でのいいいさつはおむね良好だが、積極的に声を出せない生徒もいる。 ○部活動未参加の生徒もいるが、その中にはボランティア活動や校外のワークショップ、他校との協働事業に意欲的な生徒も多いため、教員も情報収集と生徒へのใจをきいていくたい。 ○ニスマッチ等を少なくさせる取り組みが必要である。(仮入部期間を設ける等)
	3	3-④	部活動への加入を推進し、感謝や思いやりの心を持った人間性を育てる。	前期 3.3	後期 3.1	年間 3.2	●生活習慣の定期的な確認や部活動の自主的な行動により挨拶やマナーが実践できる雰囲気が整ってきた。 ●授業に集中して参加できない(居眠り)生徒が少數だが見られた。 ○日常的な指導を継続して行っていく。 ○来年度も学年集会などで常時礼節マナーなどにも関わながらキャリア教育にもつなげていきたい。
2学年	1	1-① 1-③	自ら問題や課題を見出し、解決に向けた学習活動を推進とともに、進路実現に向けた学びの充実を図る	前期 2.7	後期 2.9	年間 2.8	●探究活動と進路活動との連携 ○後期LHRを利用した進路学習について、学年だけでなく進路指導部と連携した計画が必要
	2	2-③	学校生活を通して、ルールやマナー遵守を常時指導し、規範意識を育てる	前期 3.1	後期 2.9	年間 3	●今後も継続して見守る必要あり ○挨拶をする、時間を守るといった日常生活でのマナーは向上したが、ルールをしっかり守れるよう来年度も継続した指導が必要
	3	3-② 3-④	部活動や学校行事を通じて、仲間や人間関係づくりを推進し、周囲を思いやる心を育てる	前期 2.9	後期 2.6	年間 2.8	●部活動未加入の生徒が増え、校外での活動が不透明 ●特定の人間関係しか関係性を築けない生徒が増えており、学校行事を通して、クラス・学年での関係性を深めていきたい ○不登校傾向にある生徒への指導体制の充実
3学年	1	2-③	日々の学習活動や行事等で主体的に行動し、協働する態度を育てる。	前期 3.0	後期 2.8	年間 2.9	●学校行事では主体的に取り組む姿が見られたが、普段の学習活動では取り組みが不十分な生徒もいた。残りの学校生活の中でどのように主体的に取り組ませるか、生徒主体の取り組みができる場を増やしていく必要がある。 ●進路実現のために、全生徒の意識を向上させる。
	2	1-③	面談や具体的な活動を通して、適切な進路選択につなげる	前期 3.0	後期 3.2	年間 3.1	●12月の単元テスト前から学習意欲の低下、授業開始に遅れるなどの規範意識の低下、欠席の増加が見られた。理由が定かではないが、学年集会を開くなど早めの対応をとる必要があった。 ○今までの学年団の取り組みに比べ、夏休み明け以降の取り組みには改善が見られ、意欲的に清掃に取り組んでいる姿勢が見られた。 ●3年の夏休み期間の面談までにオーバーアップ、学年説明会に自主的に参加し、しっかりと希望先へのリサーチが充分にできている生徒もいたが、希望先が決まっていない生徒もいた。1、2年次からの進路情報の提供やサポートの必要性を感じた。 ●全員ではないが、就職する生徒の卒業後に向け、自主性を伸ばそうとする態度に好感が持てた。反対に国公立大に進学する生徒の学習意欲が徐々に下がっていることがとても気になつた。 ●4/12~4/25の9日間短縮での二者面談時間があったが、昼休み・放課後を活用しての生徒一人一人の進路選択をじっくり話し合う時間が十分ではなかったに感じた。LHR等の活用も含め、前期でクラス面談ができるような全体計画がほしい。
	3	3-② 3-④	清掃活動や部活動を通して、周囲の方々に感謝できる豊かな人間性を育てる	前期 2.8	後期 2.8	年間 2.8	○担当清掃部所について、7月までの取り組みに比べ、夏休み明け以降の取り組みには改善が見られ、意欲的に清掃に取り組んでいる姿勢が見られた。 ●清掃活動については、より自主的な活動を期待したい。 ●感謝や豊かな人間性につながるような清掃活動を全員行っているとは言い切れない。もっと自覚を持った行動を期待したい。 (後期) ○清掃時間に生徒とコミュニケーションを取ることで、いろんな情報を得られ、生徒と一緒に清掃することの有意義さが確認できた。 ●日々の清掃活動の徹底化。 ●ゴミ(お菓子等)が多い。持ってきた物(ゴミ)は持ち帰る。余計な物(お菓子等)は持つてこない。 ●複数箇所の清掃場所担当で生徒への十分な指導ができる反対している。